

2013年3月期 決算説明会

ウシオ電機株式会社

2013年5月9日

＜免責事項＞本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

*記載のセグメント数値は、各報告セグメントごとにセグメント間調整等を行なった後の数値を記載しています。

*本資料の記載は、一部を除き切捨てによる億円単位で表記しております。

USHIO

Lighting —Edge Technologies

-
- I. **2012年度通期業績概況**
 - II. 2013年度業績予想
 - III. 中期ビジョン
 - IV. 参考資料

今回の決算発表のポイント

- **連結売上高**は、対前期比4.4%減の1,434億円、**連結営業利益**は、対前期比29.1%減の75億円。
- **装置事業**：**映像装置分野**ではデジタルシネマプロジェクタが先進国において相当程度普及したことにより減少。**光学装置分野**では液晶・半導体関連、LED関連、その他電子部品関連製造装置の販売が低迷。
- **光源事業**：シネマプロジェクタ用クセノンランプが引き続き好調に推移。露光用UVランプはリプレイス需要が低迷。データプロジェクタ用ランプ及びハロゲンランプは、景気低迷の影響を受けたものの底堅く推移。
- 今後の業績向上、業容拡大につながる新技術・新製品の研究開発投資を積極的に推進。
- **EUV事業**：XTREME technologies GmbH(ドイツ)の解散・清算を決定。解散に伴う特別損失33億円及びこれに伴う税効果を計上。(詳細はP15に記載)
- 配当は22円の据え置き。

業績サマリー

(億円)	FY11	FY12	YoY		FY11	FY12	YoY	
	4Q	4Q	増減	%	通期累計	通期累計	増減	%
売上高	394	376	▲17	▲4.4	1,500	1,434	▲66	▲4.4
営業利益	16	21	+4	+29.8	106	75	▲31	▲29.1
営業利益率 (%)	4.2	5.8	+1.5P	-	7.1	5.3	▲1.8P	-
経常利益	28	42	+13	+48.3	131	105	▲25	▲19.6
当期利益	15	40	+24	+155.3	87	71	▲15	▲18.2
EPS (円)	12.17	31.08			66.26	54.57		
為替レート (円)								
USD	79	83			79	83		
EUR	110	107			110	107		

為替による通期の影響額 (億円)	売上高	営業利益	経常利益
USD	14	2	3

※4Qの為替レートは、12ヶ月間の期中平均レートとなっております。

業績サマリー 《四半期比較》

(億円)	1Q	2Q	3Q	4Q	Q o Q		
					増減	%	
売上高	359	353	344	376	+32	+9.3	
営業利益	19	19	15	21	+5	+37.8	
営業利益率 (%)	5.3	5.5	4.6	5.8	+1.2P	-	
経常利益	11	20	31	42	+11	+36.0	
当期利益	5	7	17	40	+22	+129.3	
EPS (円)	3.84	6.09	13.55	31.08			
為替レート (円)	USD	80	79	80	83		
	EUR	101	100	102	107		

※1Q～4Qの為替レートは、それぞれ3ヶ月間、6ヶ月間、9ヶ月間、12ヶ月間の期中平均レートとなっております。

セグメント別 売上高、営業利益、営業利益率

(億円)		FY11	FY12	YoY		FY11	FY12	YoY	
		4Q	4Q	増減	%	通期累計	通期累計	増減	%
装置事業	売上高	251	222	▲28	▲11.5	943	858	▲85	▲9.0
	営業利益	▲2	3	+5	-	29	15	▲14	▲48.4
	営業利益率 (%)	▲0.9	1.4	+2.2P	-	3.1	1.8	▲1.4P	-
光源事業	売上高	133	145	+12	+9.5	524	543	+18	+3.6
	営業利益	18	18	+0	+0.1	76	59	▲17	▲22.5
	営業利益率 (%)	14.0	12.8	▲1.2P	-	14.7	11.0	▲3.7	-
その他	売上高	9	8	▲1	▲11.5	32	32	▲0	▲0.5
	営業利益	0	0	▲0	▲77.9	0	0	+0	+129.9
	営業利益率 (%)	1.1	0.3	▲0.8P	-	1.1	2.5	+1.4P	-

セグメント別 売上高、営業利益、営業利益率 《四半期比較》

(億円)						Q o Q	
セグメント	1Q	2Q	3Q	4Q	増減	%	
装置事業	売上高	219	213	203	222	+19	+9.4
	営業利益	4	1	5	3	▲2	▲45.9
	営業利益率 (%)	2.1	0.9	2.7	1.4	▲1.4P	-
光源事業	売上高	131	132	133	145	+12	+9.1
	営業利益	14	17	9	18	+8	+88.9
	営業利益率 (%)	10.8	12.8	7.4	12.8	+5.4P	-
その他	売上高	9	7	7	8	+0	+9.9
	営業利益	0	0	0	0	▲0	▲92.5
	営業利益率 (%)	2.5	3.5	3.9	0.3	▲3.6P	-

装置事業セグメント概況

◆映像装置：

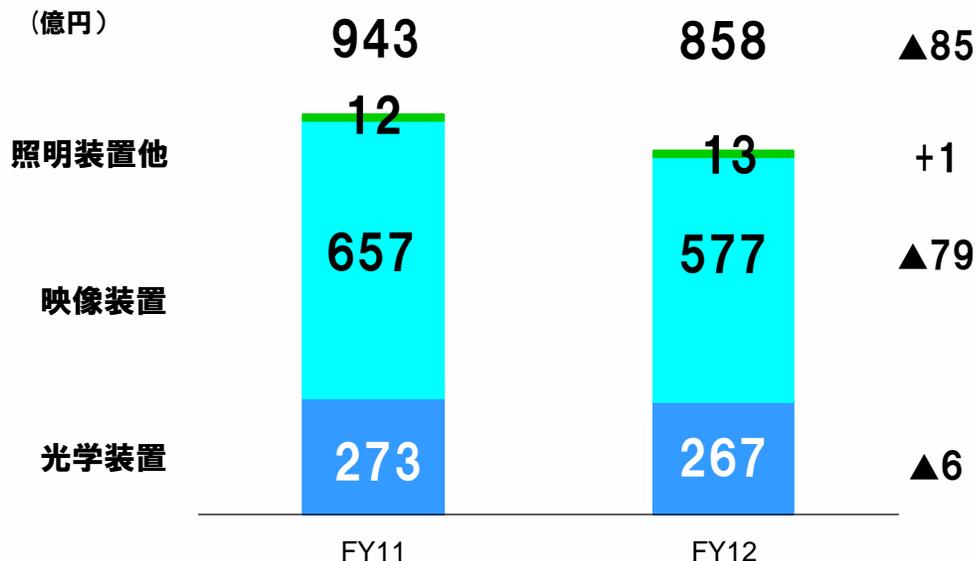
一般映像事業は堅調に推移するも、デジタルシネマプロジェクトは、販売が減少し、映像装置全体ではY○Yで減収。

◆光学装置：

液晶・半導体関連、LED関連、電子部品関連製造装置で設備投資を抑制及び延期する動きが続き、Y○Yで販売が微減。

《累計前年比較》

売上高



《4Q直前期比較》

3Q

4Q

QoQ

(億円)

売上高	セグメント	3Q	4Q	QoQ
	映像装置	143	140	▲3
	光学装置	57	78	+20
	照明装置他	2	4	+1
	合計	203	222	+19

《4Q累計前年比較》

FY11

FY12

YoY

(億円)

累計

累計

売上高	セグメント	FY11 累計	FY12 累計	YoY
	映像装置	657	577	▲79
	光学装置	273	267	▲6
	照明装置他	12	13	+1
	合計	943	858	▲85

光源事業セグメント概況

◆放電ランプ：

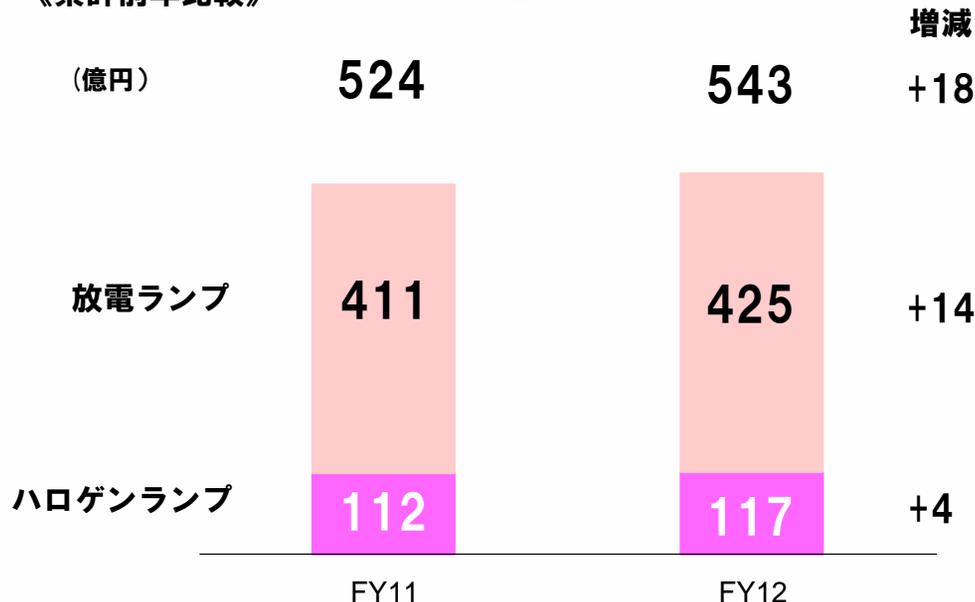
露光用UVランプのリプレイス需要は低調に推移したものの、シネマプロジェクタ用クセノンランプが引き続き好調に推移し、Y o Yで増収。

◆ハロゲンランプ：

景気低迷の影響を受けつつもY o Yで微増。

《累計前年比較》

売上高



《4Q直前期比較》

		3Q	4Q	QoQ
売上高	放電ランプ	105	115	+9
	ハロゲンランプ	28	30	+2
	合計	133	145	+12

《4Q累計前年比較》

		FY11 累計	FY12 累計	YoY
売上高	放電ランプ	411	425	+14
	ハロゲンランプ	112	117	+4
	合計	524	543	+18

-
- I. 2012年度通期業績概況
 - II. 2013年度業績予想**
 - III. 中期ビジョン
 - IV. 参考資料

2013年度業績予想

(億円)	FY12 (実績)	FY13 (予想)	YoY (増減)	2Q (FY13) (予想)
売上高	1,434	1,600	165	750
営業利益	75	125	49	50
営業利益率 (%)	5.3	7.8	2.5P	6.7
経常利益	105	145	40	60
当期利益	71	100	30	40
EPS (円)	54.57	76.26	-	30.5
ROE (%)	4.3	5.6	-	2.3
配当 (円)	22	22	-	-
配当性向 (%)	40.3	28.8	-	-
設備投資額	77	88	8	-
減価償却費	67	57	▲10	-
研究開発費	99	93	▲6	-
為替レート (円)				
USD	83	90	-	90
EUR	107	120	-	120

2013年度通期業績売上高予想（事業セグメント別）

		FY12	FY13	YoY
		(実績)	(予想)	(増減)
(億円)				
装置事業	映像装置	577	589	12
	光学装置	267	370	103
	照明装置他	13	17	4
	合計	858	976	118
光源事業	放電ランプ	425	441	16
	ハロゲンランプ	117	136	19
	合計	543	577	34
その他	産業機械・その他	32	47	15
	合計	1,434	1,600	166

2013年度装置事業セグメント

◆映像装置：

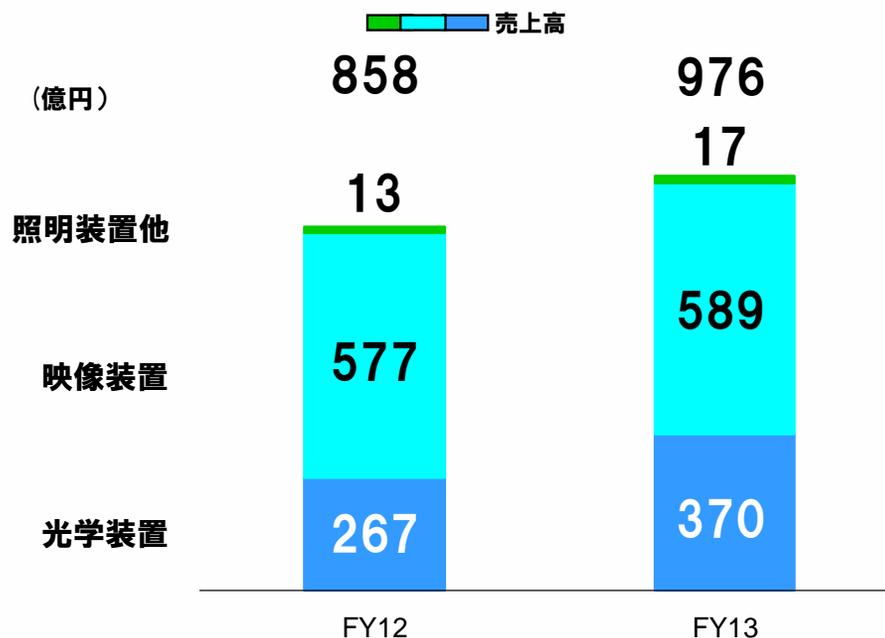
デジタルシネマ分野は、先進国でのデジタル化はピークを越えたが、新興国におけるデジタル化が進展する見込み。市場に合った新製品を拡販し、収益性を重視した事業展開を推進。

一般映像分野は、世界経済の回復と共に、バーチャルリアリティやシュミレーション、及びデジタルサイネージ分野など、幅広い分野で先進国のみならず、新興国での需要拡大が期待。

◆光学装置：

液晶・半導体関連市場における設備投資は徐々に回復基調にあると考えており、依然として好調に推移しているスマートフォンやタブレット端末の市場の拡大及び、中国を中心としたTV需要の拡大に期待。

液晶関連装置（光配向装置、貼り合わせ装置、洗浄用ユニット）の拡大と、電子部品関連装置のラインナップ拡充により増収を見込む。



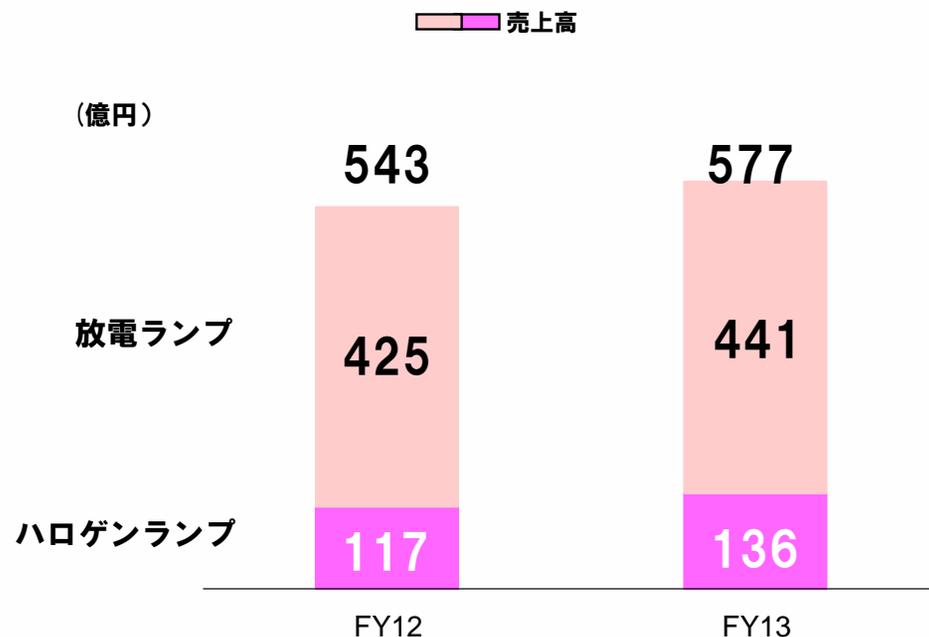
2013年度光源事業セグメント

◆放電ランプ：

液晶・半導体関連市場の設備稼働率の回復も期待され、UVランプの需要の回復を見込む。また、シネマ用クセノンランプは引き続き好調に推移する予定。データプロジェクタ関連も底堅く推移の予定。今後も、固体光源事業関連製品の開発、販売拡充を推進するなど、高シェアを維持、拡大。

◆ハロゲンランプ：

OA関連は、底堅く推移すると見込む。半導体製造用ヒーターランプも堅調に推移すると見込む。高い品質力を強みに、高シェアを維持



EUV事業(本日開示のプレスリリース)について



ASML

USHIO

EUV事業を日本に集約し、検査・開発用として事業を継続。

【本日開示のプレスリリース】

ウシオ電機、EUV事業を日本国内に集約、検査・開発用途へ

— 保守メンテナンス業務をASMLに移管 —

ウシオ電機株式会社(本社:東京都、代表取締役社長:菅田 史朗、以下 ウシオ)は、次世代半導体露光用EUV光源の研究開発会社、エクストリームテクノロジーズ(XTREME technologies GmbH 本社:ドイツ、社長:五十嵐 龍志、以下エクストリーム)の活動を停止し、今後はEUV光源事業を日本国内のウシオに集約した上で、検査・開発用に事業継続していくことを決定いたしましたのでお知らせします。

これにともない、ASML Netherlands B.V.(本社:オランダ、ASML Holding N.V. 子会社)に販売したエクストリーム製EUV光源の保守メンテナンス業務は現地時間の5月9日をもってASMLに移管いたします。

なお、本件が業績にあたる影響は、2013年3月期の決算に反映済みです。

EUV事業(本日開示のプレスリリース)について

決定内容の補足

- エクストリームで行っていた、LDP (Laser-assisted Discharged produced Plasma) 方式によるEUV露光用光源(スズと回転電極を使用)の開発業務を日本へ移管。検査・開発用の市場を対象として継続。
- ウシオが行っていた、同市場向けDPP (Discharge Produced Plasma) 光源(クセノンガスと固定電極を使用)の設計・製造・保守サービス業務と統合。
- エクストリームがASMLに販売したLDP方式によるEUV露光光源の保守メンテナンス業務をASMLへ移管。
- エクストリームが開発し、保有するIPはウシオが買い取り、保有。

決定理由

- 量産用のLDP露光用光源の事業を継続した場合の、投資回収リスクが極めて大きくなったと判断したため。

-
- I. 2012年度通期業績概況
 - II. 2013年度業績予想
 - III. 中期ビジョン**
 - IV. 参考資料

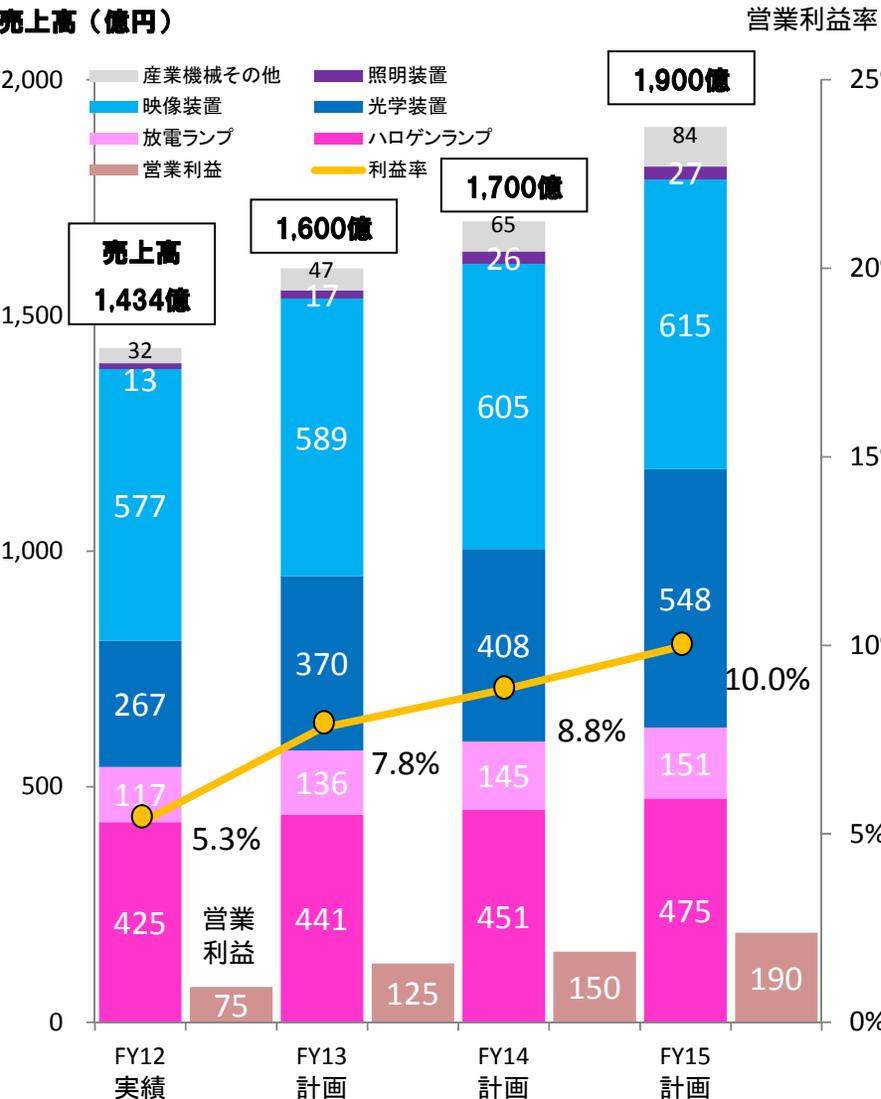
ウシオグループの目指す姿

光関連事業において、世界No.1のブランドと技術力を誇り、
顧客ニーズを満たす最適なソリューションを常に提案できる
【光創造企業】

中期ビジョン定量目標（カッコ内は2012年度（2013年3月期）実績）

売上高	1,900億円	（1,434億円）
営業利益	190億円	（75億円）
営業利益率	10%	（5.3%）
ROE	8%以上	（4.3%）

2013年発表中期ビジョン 売上高（サブセグメント別）・営業利益



セグメント	サブセグメント	FY15 売上高 (億円)	3年間の増加額 (億円)	3年間の成長率 (%)
装置事業	映像装置	615	+38	6.6%
	光学装置	548	+281	105.2%
	照明装置	27	+14	107.7%
	小計	1,190	+332	38.7%
光源事業	ハロゲンランプ	151	+34	29.1%
	放電ランプ	475	+50	11.8%
	小計	626	+83	15.3%
その他	産業機械他	84	+52	162.8%
合計		1,900	+466	32.5%

営業利益		営業利益率		
億円	3年間の増加額 (億円)	成長率 (%)	%	3年間の成長率 (P)
190	+115	153.3%	10.0%	4.7p

1. 映像装置事業

成長ドライバはシネマから一般映像へ 新興国中心に、さらにグローバルな展開



CPシリーズ



ソラリアシリーズ

(1)シネマ

- ・全世界13万スクリーンのうち、10万弱がデジタル化完了(FY2012末現在)
- ・しかしアジア、中南米、東欧、中東、アフリカなど新興国で新設のスクリーン数は今後も増加の見込み

→新興国に適したモデルを拡販し、シェアを維持。ランプ需要を着実に取り込む。

- ・プロジェクターの主流はCPシリーズからソラリアシリーズへ
(単価は下がるもマージンは維持)
- ・重点地域—先進国から新興国へ
- ・シェア—総出荷台数は減少(対FY2012比で20~30%ダウン)するも、引き続きシェア約40%を維持
- ・R&D—LDプロジェクタなどハイエンドの新製品開発に投資



1. 映像装置事業

(2)一般映像：VEビジネス拡大とBPビジネスの安定成長

映像画像



一般映像



バーチャルリアリティ、シミュレータ



デジタルサイネージ、コントロールルーム
イベント、ホール、プロジェクションマッピング



1. 映像装置事業

1) VEーバーチャルリアリティ

- ◆販売先 製造業(自動車、航空、消費財)、
建築(ゼネコン)、学術(大学、研究機関)
- ◆用途 設計の評価用
- ◆地域 先進国、新興国



施設サイズ:7.5mx3mx3m

プロジェクタ:16台使用

スクリーン:5面

※AIRBUSに採用された評価用VRシステム”CAVE”



世界各地航空ショーでの様子

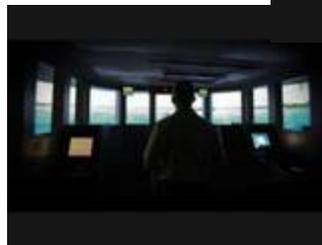
1. 映像装置事業

2) VE—シミュレータ

- ◆販売先 防衛(軍、自衛隊)、造船、
学術(研究機関)
- ◆用途 操縦、操作の訓練、設計評価、研究
- ◆地域 先進国、新興国



王立空軍(英国) ショウベリー空軍基地
中央航空管制学校(CATCS)で採用された
シミュレータシステム



海軍兵学校(米国アナポリス)で
採用された船舶用シミュレータシステム



UNITED STATES NAVAL ACADEMY
LEADERS TO SERVE THE NATION

1. 映像装置事業

3)BP－管制、デジタルサイネージ

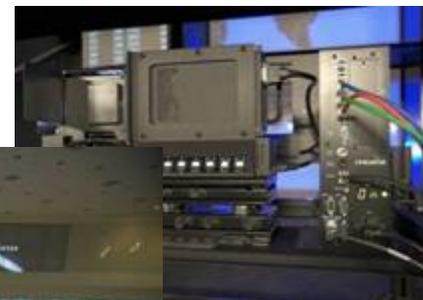
- ◆販売先 防災、警察、管制センター、テレビ局、レンタル会社、企業など
- ◆用途 24時間管制、広告、情報表示
- ◆地域 先進国、新興国



カナダのテレビ局に設置された
マイクロタイル®



ロンドン証券取引所に設置されたマイクロタイル® (500台)



AT&Tグローバルネットワークオペレーションセンター
(リアプロジェクションシステム141セット)

1. 映像装置事業

4)BP-大型映像、プロジェクションマッピング

◆販売先 レンタル会社、企業、ホール、スタジアム

◆用途 イベントや施設での大型映像の投影

◆地域 新興国、先進国



東京スカイツリー
(20,000L級x27台)



フランスエッフェル塔120周年イベント
(16,000L,18,000L、25,000L計27台)



2010FIFAサッカーワールドカップ閉会式
(18,000Lx18台)

1. 映像装置事業

5) 世界に広がるクリスティの映像事業販売拠点



★ 現地法人：ブラジル※、上海、インド※、豪州※

★ 支店：東京、シンガポール、韓国、（北京）、ドイツ、UK、フランス、ドバイ、スペイン、東欧、南アフリカ※

※2012年度開設

2. 光学装置事業

(1) FPD

新プロセス「光配向」用装置および既存のFPD製造用各種装置の中小型パネル投資への拡販



エキシマ洗浄装置

(2) 電子部品

既存の各種露光装置の拡販および新製品開発



光配向装置

※UX7の2.5D, 3Dインターポーザ用途への拡販

※UX5を新用途へ展開
(インテルパッケージング用から、スマホタブレット用APへ)

※UX4(LED用、パワー半導体用、MEMS用露光装置)シリーズ
およびアドテック製露光装置の拡販



液晶パネル貼り合わせ用照射装置(ODF)



UX4-LED

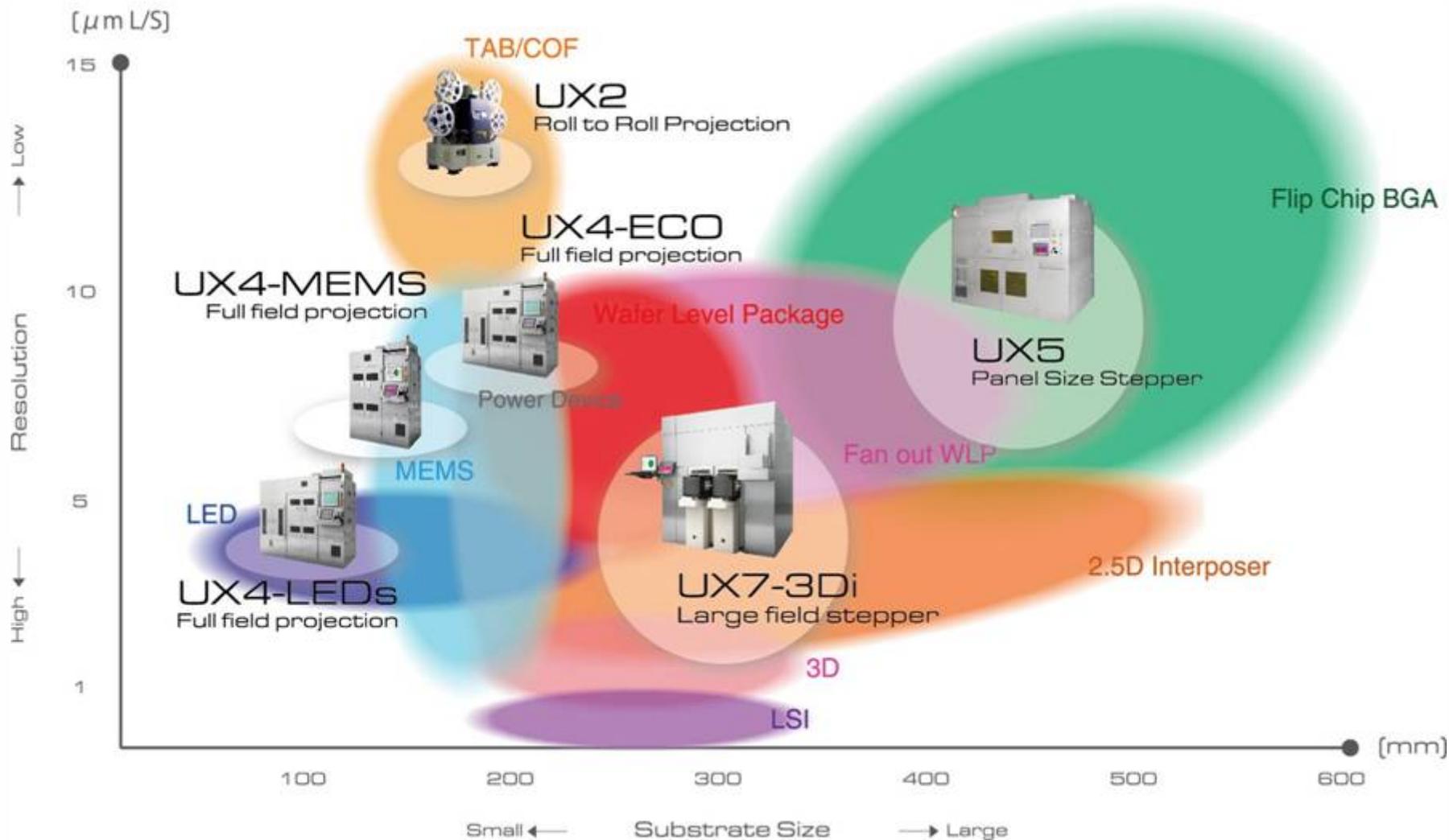


UX5



UX7-3Di

2. 光学装置事業



3. 放電ランプ事業およびハロゲンランプ事業

既存製品

高シェア製品の品質・シェアの維持、拡大

※主要製品のグローバルシェア

UVランプ—約75%、クセノン(デジタルシネマ用)—約70%、OA用ハロゲン—約70%

新規製品

固体光源の拡大

※OA機器用LED読み取り光源など



OA用ハロゲンランプ



露光用UVランプ



シネマプロジェクタ用クセノンランプ



OA機器用LEDモジュール

4. バイオメディカルBUを新設

- ・ 光と医療の接点をビジネスに展開
- ・ ウシオの光の要素技術プラス社外のノウハウを結集し付加価値創造へ
- ・ 消耗品ビジネスへの展開を重視し安定した収益を確保
- ・ 当面は光治療/光検査・診断を主軸に
- ・ 将来的にはバイオメディカル以外へも展開予定
- ・ 産学連携・M&Aを重視
- ・ 国内から海外へ展開

2013年4月22日発表 血液分析装置「ポイントリーダー®」

LED光源:エピテックス社製(ウシオグループ)

ウシオ電機の露光装置用CCDカメラによる画像検査および

処理技術を利用

チップ販売による消耗品ビジネス



ペインビューワー®
(静脈投影)



セラビームUV308®
(紫外線治療器)



アフィニー
(UV保管庫)

2012年10月2日発表 不正薬物検知「オンサイト微量分析キット」

グループ会社エピテックス:LED光源を使用

ウシオ電機の光学技術を利用

試薬販売による消耗品ビジネス



5. 株主還元について

◆配当政策

- ・ 安定配当。連結配当性向25～30%を目途

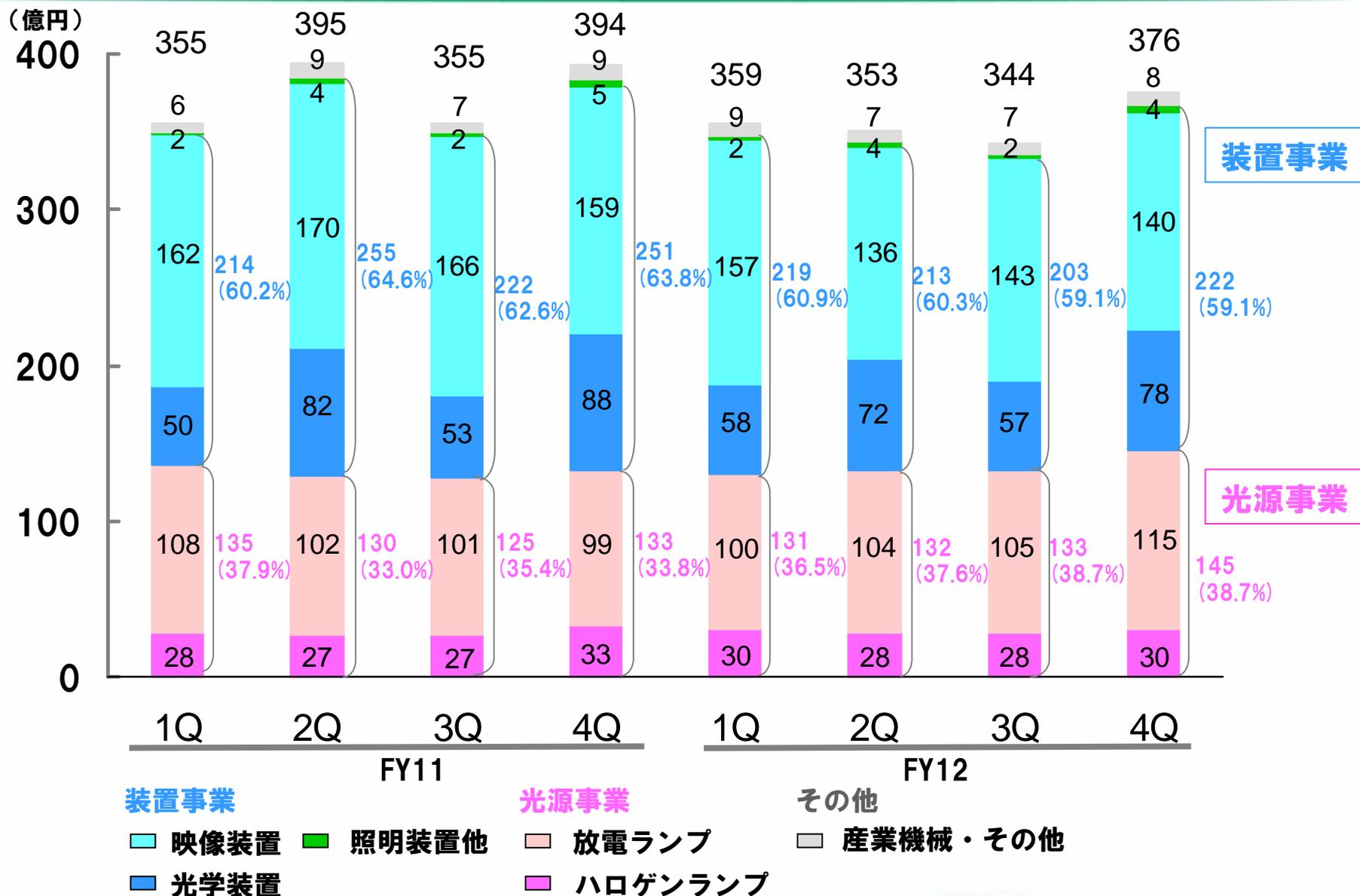
◆自己株取得

- ・ 株価の推移などにより、株主還元策として機動的に実施

USHIO

-
- I. 2012年度通期業績概況
 - II. 2013年度業績予想
 - III. 中期ビジョン
 - IV. **参考資料**

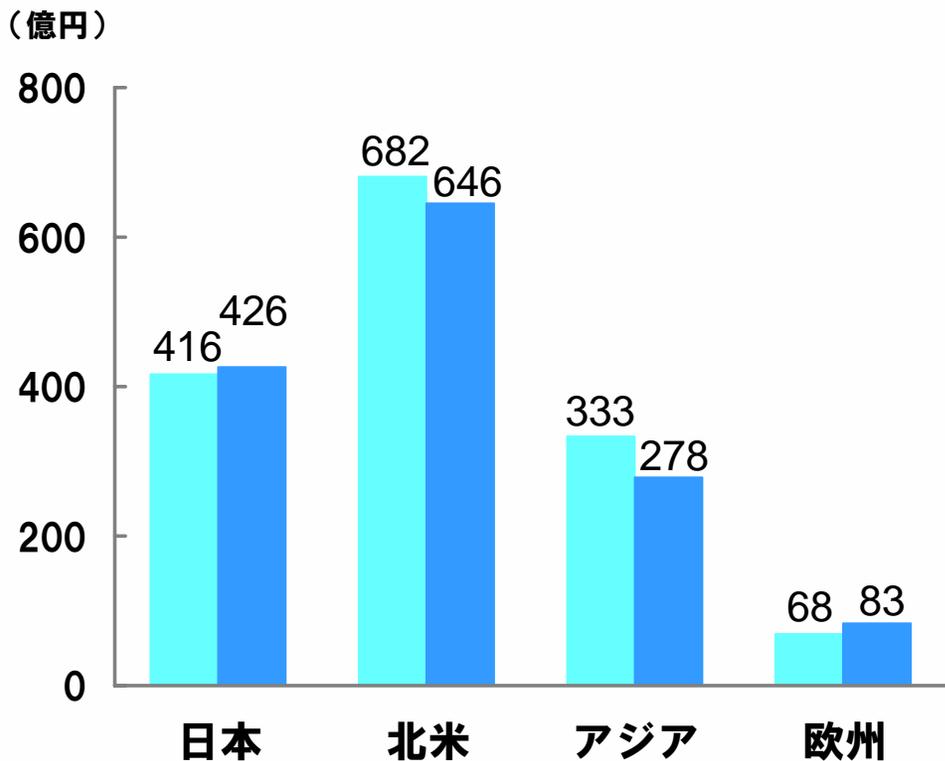
サブセグメント別売上高 《四半期比較》



地域別損益 《累計》

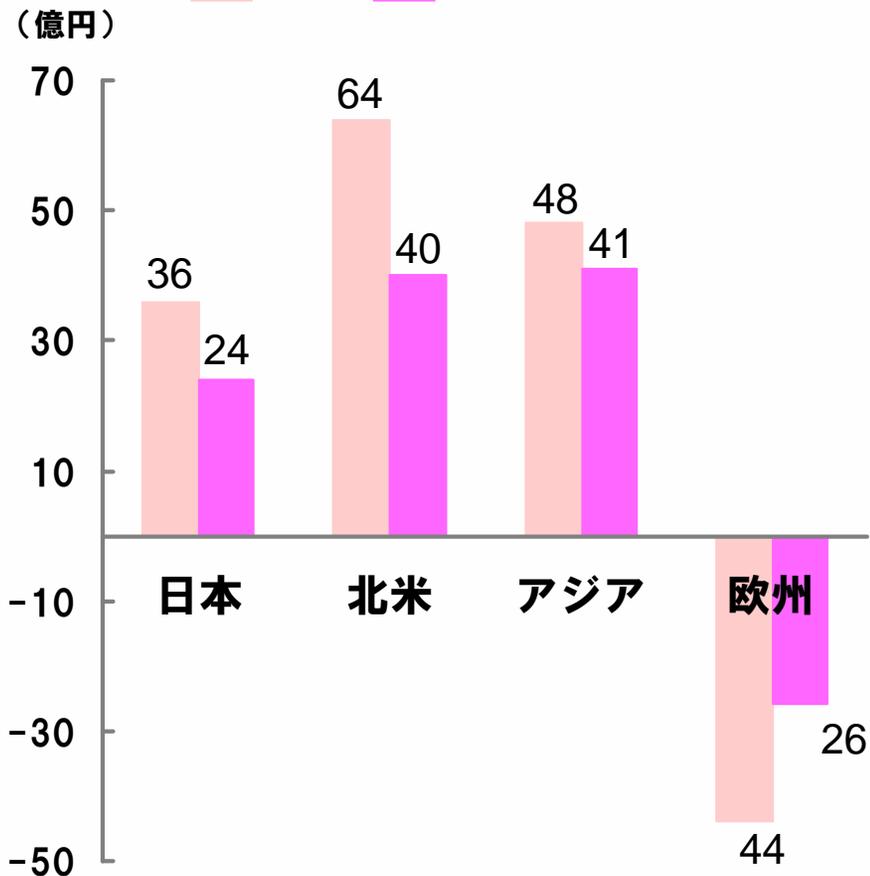
◆売上高

FY11 FY12



◆営業利益

FY11 FY12

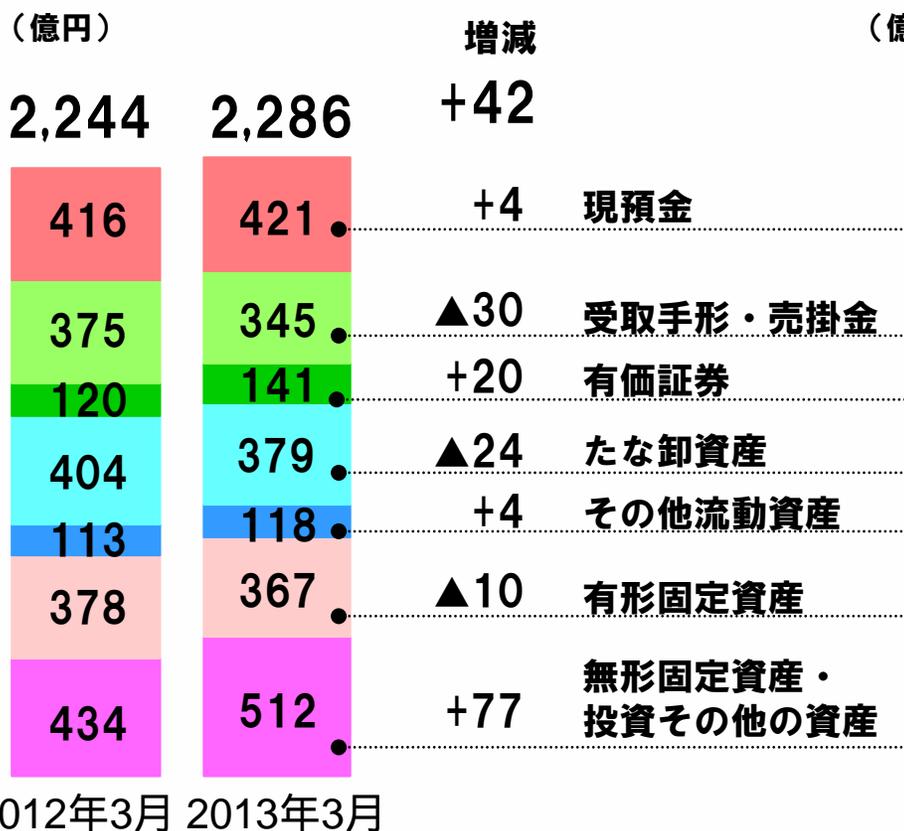


營業外収支 《累計》

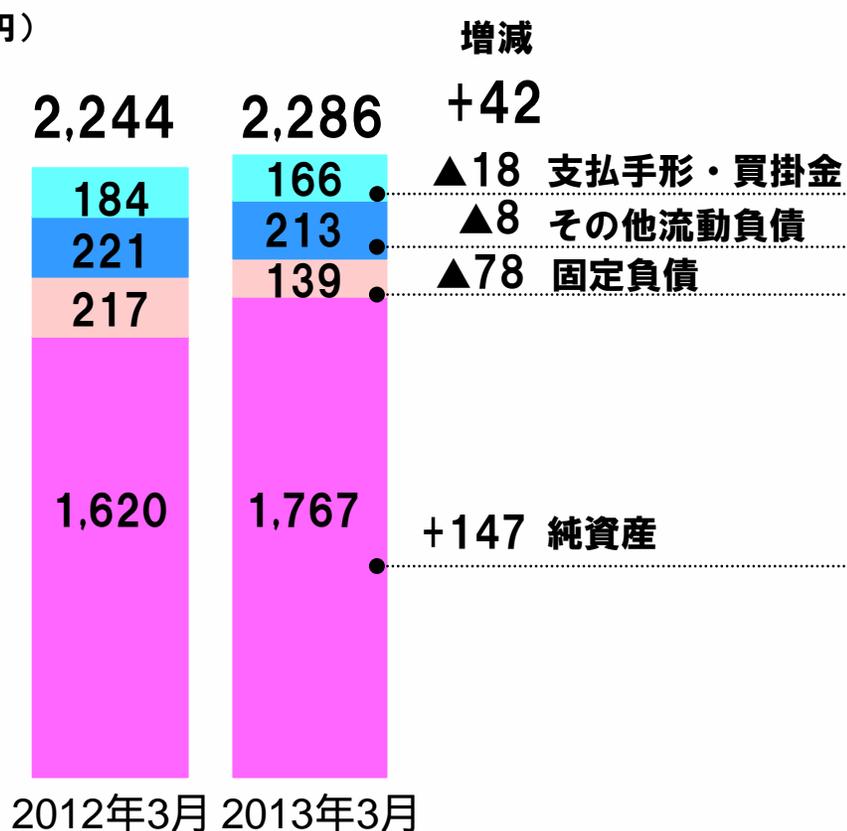
(億円)	FY11	FY12	YoY
營業外収益	32	35	+3
投資有価証券売却益	14	9	▲5
為替差益	-	2	+2
売買目的有価証券運用益	0	4	+3
營業外費用	7	5	▲2
為替差損	4	-	▲4
營業外収支	24	29	+5

BS内訳

◆資産



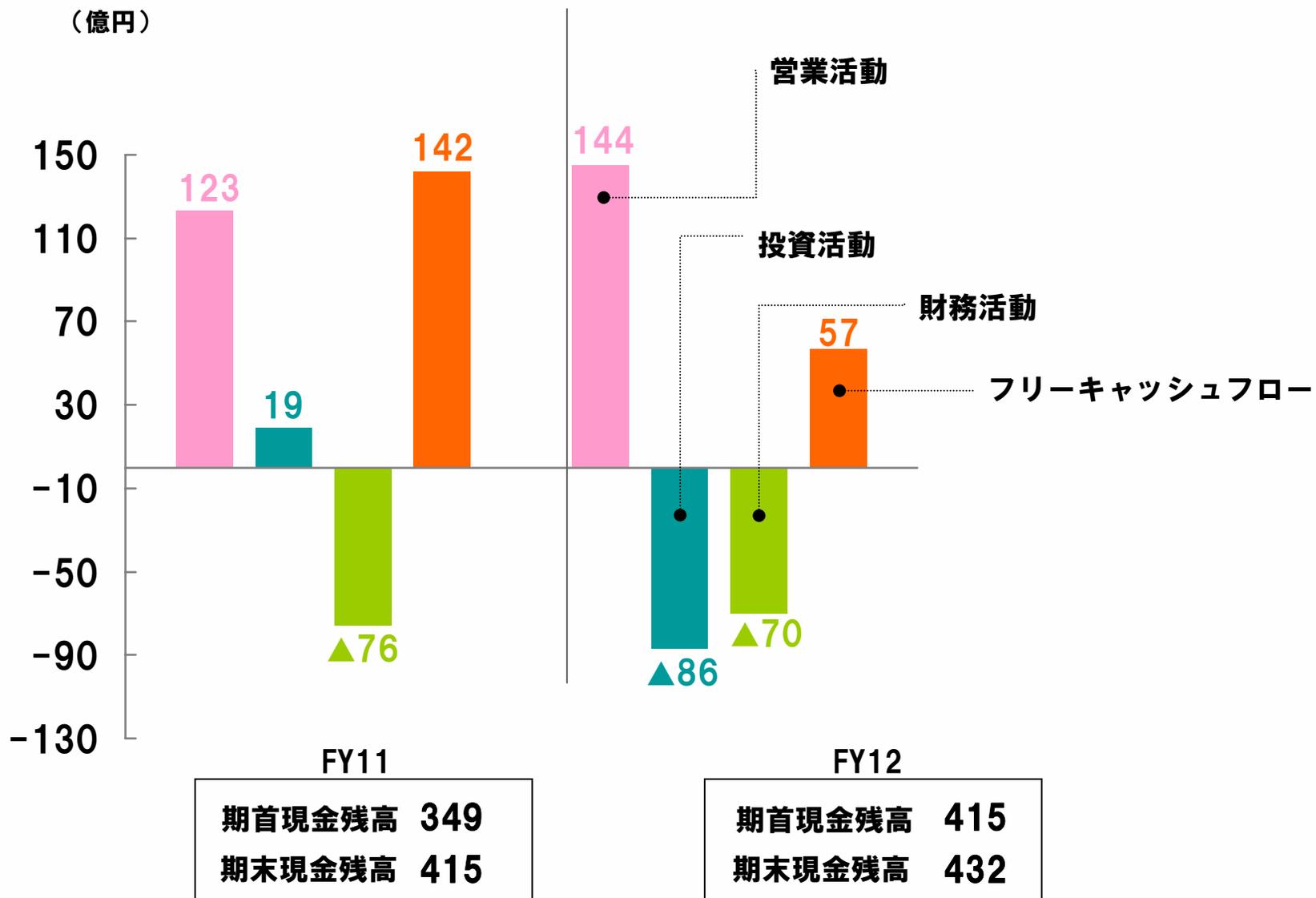
◆負債・純資産



●回転月数 (ヶ月)	2012/3	2013/3
売上債権	2.9	3.0
たな卸資産	3.2	3.3

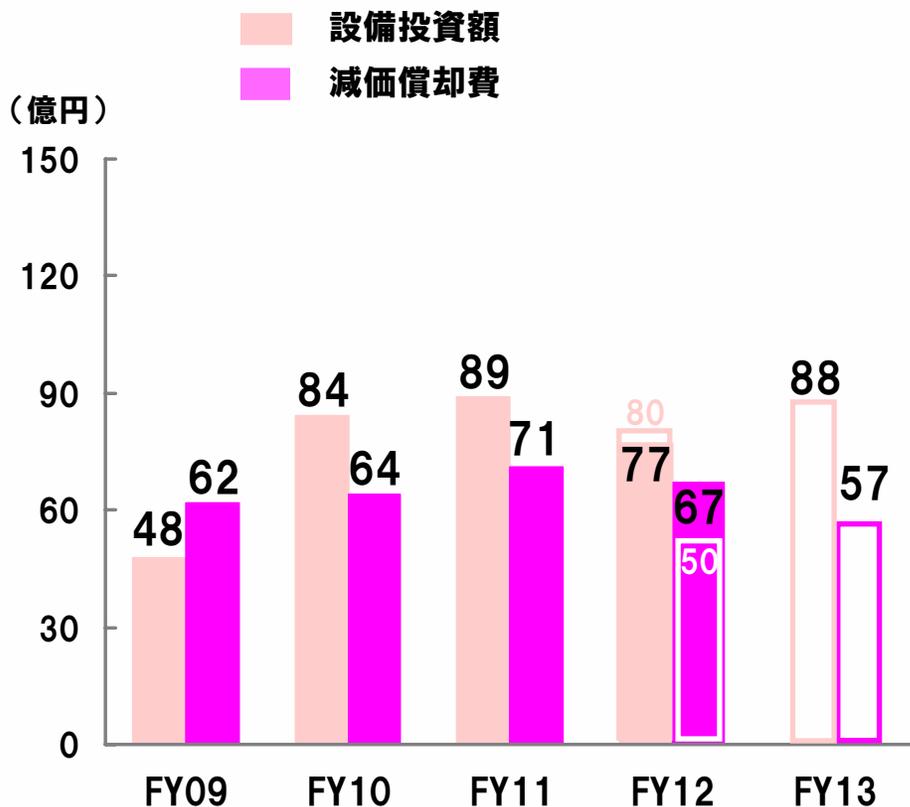
●自己資本比率	2012/3	2013/3
	70.8%	75.9%

キャッシュフロー

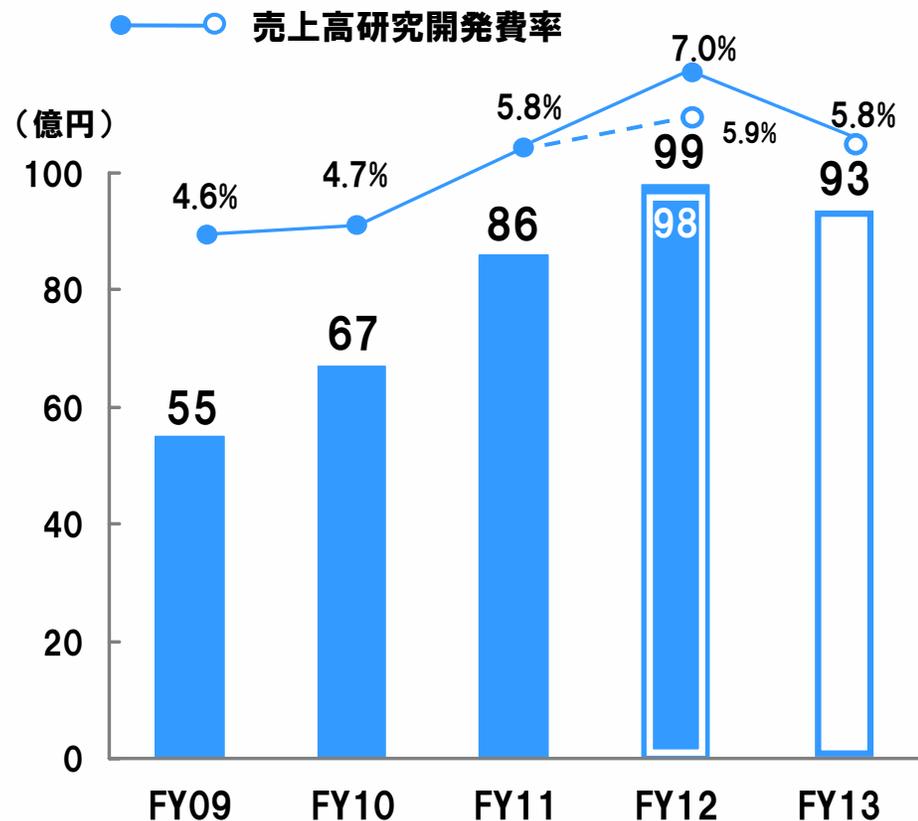


設備投資額・減価償却費・研究開発費

◆設備投資額・減価償却費



◆研究開発費



USHIO

本資料に関するお問い合わせ先
ウシオ電機（株）広報IR室 （03）3242-1836
contact@ushio.co.jp
<http://www.ushio.co.jp/>